

ろうさんパートナーズ

日本勤労者山岳連盟
Japan Workers' Alpine Federation
〒162-0814
東京都新宿区新小川町5番24号
TEL 03(3260)6331(代)
FAX 03(3235)4324(代)
URL <http://www.jwaf.jp>

お問い合わせ・情報は
フリーダイヤル
0120-44-2742
(平日10時~18時)
E-mail: jwaf@jwaf.jp

総会の決定を受け スタートへ準備着々



個人会員制導入を決定した第30回総会

個人会員制度 ろうさんパートナーズ

いま、私たち日本勤労者山岳連盟(労山)は、組織の大きな見直しを求められています。

2月18、19日に東京・晴海グランドホテルで開催された全国連盟第30回総会では、その大きなステップとして、「個人会員制度」導入提案(第2号議案)が熱心な討議の末、採択されました。

この提案は、山岳会に所属しなくても個人の資格で労山に加入できる新制度を作るものです。

総会では、全国の労山会員の年齢構成が初めて明らかとなり、すでに平均年齢60・5歳、65%の会員が選任を過ぎていることが報告されました。

一方、最近各地の山で、「山ガール」「山ボーイ」と呼ばれる若い登山者・ハイカーの姿が目立ってきています。

私たちが長年築いてきた登山・ハイキングの活動を、どうしたら次の世代に引き継いでいけるのか、重要課題です。

個人会員制度は、2年前の全国総会で提起された登山・ハイキングの活動を、どうしたら次の世代に引き継いでいけるのか、重要課題です。

第2号議案に対しては、「これまでの会員拡大の総括がなされず、教訓が生かされていない」「二団体の中に二組織を作るのは不団結を生む」「個人情報セキュリティ管理は大丈夫か」などの批判的意見が出される一方で、「試行錯誤的に実施すべき」「高年齢化が

すむ労山の体力があるうちにチャレンジすべき」などの賛成意見が出され、論議は白熱しました。

こうしたなかで「今回は採決せず、継続討議とすべき」との意見もありましたが、議長判断で「第2号議案を今総会で採決に付すべきか否か」を代議員に問うたところ、賛成多数で採決に付すことが決まりました。

それにより各議案が採決され、全議案が賛成多数で可決されました。

決定に基づき、全国理事は「個人会員制度促進本部」を設置。「安全登山サポートシステム」や個人会員専用ホームページの構築、各種宣伝物の作成など、具体的な準備に取りかかっています。

また、沖縄、高知、東山サポーターシステムや個人会員専用ホームページの構築、各種宣伝物の作成など、具体的な準備に取りかかっています。

また、沖縄、高知、東

個人会員制度の概要

(基本方針)

- ① 個人会員制度は、広範な未組織登山者に登山知識・技術を学ぶ機会をつくり、山での事故を減らし、登山文化の発展に寄与するという労山の基本理念を全国の登山愛好家の中に広く普及し、組織することを目的とする。
- ② 個人会員制度は、労山の全く新しい組織制度として導入する。個人会員は、会・クラブの団体組織とともに労山の基礎組織を構成し、相互のパートナーシップ(仲間づくり)の確立をめざす。
- ③ 個人会員制度は、新特別基金を適用せず、個人会員独自の遭難対策補償制度とする。
- ④ 地方連盟の個人会員制度については、全国連盟の個人会員制度と最終的統合が可能となる統合の標準を設定し、統合を促進する。

(具体的内容)

- ① 入会の対象者 16歳以上の個人(20歳未満は保護者の承諾要)
- ② 入会の条件 電子メールを使えること
- ③ 個人会員の愛称 「ろうさんパートナーズ(仮称)」
- ④ 会費 I型 年間 8,000円 -I型、II型とも一括前納制- II型 年間12,000円(登山時報購読料込み)
- ⑤ 入退会 労山ホームページ等よりメールで受付
- ⑥ 山行管理 「安全登山サポートシステム」(構築中)により、計画書提出、入・下山届けをメールで行う。未提出の場合、交付はされない。下山報告がない場合、サポートセンターが本人または緊急連絡先に連絡し、下山の確認ができない場合、警察などに救助要請する。
- ⑦ 遭難事故対策補償制度 (対象は4を除き国内での事故)
 - 1.救助捜索費(200万円限度)、2.死亡見舞金10万円、3.傷害見舞金(入院3~30日)3万円、(入院31日以上)5万円、(通院3~10日)5千円、(通院11日以上)1万円、4.海外トレッキング見舞金3万円
- ⑧ 地方事務費 個人会員制導入を決定した地方連盟には地方事務費を交付する(1人年間1600円)
- ⑨ 募集開始 今年8月1日からを予定。
- ⑩ 宣伝 ポスター、リーフレットを作成する。



若い仲間たち

第30期全国連盟役員

- (会長) 西本武志
(副会長) 安田治 渡邊健治
赤間弘記 佐々木功
金井光正 洞井孝雄
滝上肇 小形正則
森田南海男 樺島祥平
(理事長) 斉藤義孝
(副理事長) 石川友好 井芹昌二
浦添嘉徳 高橋友也
花村哲也 広木国昭
(事務局長) 川嶋高志
(理事) 伊藤正勝 白井邦徳
大澤辰雄 岡田賢一
河野千鶴子 後藤真一
今野善伸 坂本正治
田上千俊 田村和寿
奈良原宜子 林祥介
藤元理津子 藤樹啓志
(監事) 田辺哲夫 渡辺三男

第30回総会 採決結果

- 【第2号議案を採決に付すことへの賛否】
賛成40 反対19 保留6
- 【各議案の採決結果】
- 第1号議案(活動総括・方針) 賛成53 反対7 保留5
 - 第2号議案(個人会員制度) 賛成39 反対19 保留9
 - 第3号議案(再改定保険業法への対応) 賛成56 反対8 保留0
 - 第4号議案(決算・監査報告) 賛成62 反対3 保留0
 - 第5号議案(予算) 賛成46 反対16 保留5

脱原発・持続可能で
平和な社会をめざして

さようなら原発 10万人集会

7月16日(月・祝) 13:00~
東京・渋谷 代々木公園
集会後、パレードあり
(呼びかけ人) 内橋克人、大江健三郎、落合恵子、鎌田慧、坂本龍一、澤地久枝、瀬戸内寂聴、辻井喬、鶴見俊輔

2012年5月末 救援募金総額 1976万8997円

●募金をお送りいただいた地方連盟（地方連盟、各会、個人を地方連盟単位で整理）

北海道道央、道北、道東、青森、岩手、茨城、栃木、群馬、埼玉、東京、千葉、神奈川、山梨、長野、新潟、富山、石川、福井、静岡、愛知、岐阜、近畿ブロック、滋賀、京都、大阪、奈良、和歌山、兵庫、岡山、広島、島根、香川、徳島、愛媛、高知、福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、全国連盟女性委員会、NPO法人「足尾に緑を育てる会」、むさしの山荘、その他個人

※この他、救援物資も多数の方からご提供いただき、また支援Tシャツは5月末までに約3千枚を売り上げました。ご協力ありがとうございました。

救援募金の支出

被災県連お見舞金	350万円	(岩手、宮城、茨城)
被災会員お見舞金	357万円	(全壊10万円18件、半壊5万円29件、家族死亡2万円16件)
被災会員生活再建支援金	460万円	(岩手県21名、宮城県47名、北海道道央1名)
救援物資(衣類、ガスボンベ等)購入費	87万5722円	
ボランティア派遣費(現地拠点利用謝礼等)	175万円	
登山道放射能汚染マップ作成活動費(線量計購入等)	148万3350円	
その他(物資運搬車横断幕作成、現地打合わせ経費等)	16万5938円	
3月末までに総計 1594万5010円を支出		

ボランティア派遣 (2012年3月まで)

岩手県連=延べ122名、宮城県連=延べ334名、青森=岩手県大槌町6名、群馬=岩手県岩泉町・石巻地区59名、栃木=宮城県気仙沼地区・石巻地区93名、茨城=宮城県石巻地区2名、埼玉=宮城県石巻地区42名、千葉=宮城県気仙沼地区・石巻地区686名、東京=宮城県石巻地区403名、神奈川=宮城県石巻地区20名、長野=宮城県石巻地区・福島県南相馬市・岩手県釜石市等10名、静岡=宮城県岩沼市・岩手県大船渡市・遠野市等68名、石川=宮城県石巻地区・南三陸町等33名、愛知=宮城県石巻地区24名、滋賀=宮城県石巻地区15名、京都=宮城県石巻地区92名、大阪=宮城県石巻地区54名、兵庫=宮城県石巻地区78名、広島=岩手県大槌町釜石市14名、福岡=宮城県南三陸町・気仙沼市等3名、全国連盟女性委員会=宮城県石巻地区80名 (4月以降も引き続き派遣されている)

2011年3月～2012年3月にのべ **2238名** を派遣

被災地救援にご協力 ありがとうございました

日本勤労者山岳連盟 震災対策本部

救援募金 Tシャツ販売 ボランティア派遣 継続します 今後もご支援をお願いします

昨年3月11日の東日本大震災発生から1年以上が経過しました。被災地では復興が始まっているものの、地域社会再建への道は、なお多くの困難がともなっています。また、福島県ではいまだに立ち入る事さえできない放射能汚染地域が多く残され、復旧のメドがたつていません。今後も、なお救援活動を継続することが必要であると考えています。

この間、全国の皆様からは救援募金や物資、Tシャツの販売、ボランティアの派遣など、あたたかいご支援を寄せていただきました。心からの感謝を申し上げます。とりあえず、これまでの結果は左の表のとおりであることをご報告いたします。募金やTシャツ売り上げの残金につきましては、今後に予定される救援活動等で活用していきたいと考えています。

今後の支援活動
労山は、今後も被災地への支援活動を継続します。現在、宮城県石巻市長から本年4月から9月まで、牡鹿地区での瓦礫撤去や汚泥処理作業の支援継続の要請が届いております。これについては宮城県連盟や石巻市とも協議しながら、支援活動の継続をしていく方向です。

IAセンターなどの協力も、必要になってきます。各地方連盟でも、ボランティア活動に会員の意欲が強いところは、独自に被災地の支援ニーズを把握するが、全国連盟と情報の交流をしながら支援活動を行なってください。また福島原発事故で、地元からの避難をよきなくされた多くの方がいらっしゃいますが、全国連盟ではそれらの方々の詳しい避難生活の状況が把握できていません。家族がバラバラになったり、仕事を失った方も多く、原発に近い地域ではほとんどの地域に限り、自宅に住める見通しのない方も少なくありません。これらの原発避難民の方たちこそ、いま最も苦しい状況に置かれています。こちらの支援は、いますぐは難しいとしても何が

できるのか、支援を探っていきたく思います。以上のような状況です。今後の支援活動継続は、これまで述べたような新たなニーズを探りながらとなり。被災地域の労山の方々と、支援活動を続けている他団体や地元自治体なども情報交換しながら、今後の取り組みを提起したいと思えます。したがって救援募金や支援Tシャツの販売は継続します。今年、新日本スポーツ連盟が主催する「全国スポーツ祭典」の一環として、労山も「登山祭典」を7月8日の企画など、登山団体らしい取り組みも含め、多彩な支援活動を続けていきたいと思います。

前年度はボランティア450名を派遣 NPO法人を立ち上げ、息長く支援

被災地救援で大活躍する千葉連盟の取り組みを総括する
震災直後、すぐにも現地に行きたい、何でもいいからお手伝いをしたい。しかしながら、まだ余震は続く、現地への交通は通行止め、ガソリンは手に入らない、この様な中で結果的に仲間間の強い意思で千葉連盟は、複数回参加の会員が多

盟の支援隊は出発した。4月17日に、第一陣を気仙沼市唐桑半島に送り、2011年度は約450余名の支援隊を、気仙沼、石巻に送る事が出来た。この支援隊への参加で特徴的なのは、複数回参加の会員が多かった。また、支援活動を即行動に移せる体制を作るために、震災直後にボランティア登録を呼びかけた、早速9会から35名の登録があり、その後の支援活動の中心となった。千葉・栃木連盟の活動を受けて、関東ブロックの会議も行った。支援活動の中心を気仙沼から石巻に移し、より多くの人手を確保するために統一行動日を設定し、集中して支援活動を行うことを確認した。石巻



気仙沼市で活動する千葉連盟のボランティア

全国ハイキング学校
9月22日(土)13時～23日(日)16時
※会場の都合で当初予定より1週間遅らせました。
会場 東京都奥多摩町・旅館「観光荘」
およびその周辺の野外での実習あり
労山会員外の一般参加もOK。
講習内容 疲れない山の歩き方、地図読み、ファーストエイド、岩場の安全な通過法
参加費 10000円

第12回 東日本女性登山交流集会
つなげよう 仲間と希望の輪！ さくらんぼ集会
10月13日(土)～14日(日)
山形県/最上町 赤倉温泉「あべ旅館」
みちのくのアルプス=神連連峰で交流登山
参加費 10000円
記念講演「登山者の遭難事例から学ぶ安全登山」
野口いづみドクター(鶴見歯科大学准教授)
山筋ゴーゴー体操 石田良恵先生

第16回 登山者自然保護集会
大気環境問題の現状と山岳環境保全について考える
11月17日(土)～18日(日)
大阪府/高槻市市民会館
記念講演「大気環境問題とエネルギー源の選択」
河野仁: 兵庫県立大学環境人間学部教授

「登山祭典」を7月8日の企画など、登山団体らしい取り組みも含め、多彩な支援活動を続けていきたいと思います。被災者との交流を目的とした登山やハイキングも「登山祭典」を7月8日の企画など、登山団体らしい取り組みも含め、多彩な支援活動を続けていきたいと思います。被災者との交流を目的とした登山やハイキングも「登山祭典」を7月8日の企画など、登山団体らしい取り組みも含め、多彩な支援活動を続けていきたいと思います。

YAMAKIN GOGO 体操 売れてます

藤元・女性委員長に聞く

「このパンフはどのよう

に誕生したのですか

遭難や事故をなくすため
に、女性たちの交流や学習
会が、地道にコツコツと全
国的に取り組まれていま
す。ネットワークで広がる
それらの女性たちの願いか
ら生まれました。

「全国女性委員会は、女
性の体力増強、安全登山



も役立てていきたいと考
えています。5年間の統計が

「山筋ゴゴ体操」のこ
注文は全国連盟03-32
60-6333 女性委員会
へ。頒価1冊200円、送
料は1冊6冊80円、7
10冊120円、11
16冊200円、20冊以上は
送料無料



推進にむけ、他にどんな
取り組みをしていますか
首都圏の会員の協力を得
て、年に一回、5年がかり
で、女性登山者の体力、筋
力の推移を測定していま
す。今年は4回目となりま
した。登山を続けること
で、加齢による体力の右肩
下がりをどう引き伸ばすこ
とができるかを明らかに
し、そのための自己管理に
役立てていきたいと考
えています。5年間の統計が

登山道の放射線量測定結果(日本勤労者山岳連盟) ※主なもの
地上1mの空間線量値 単位: 1時間あたりマイクロシーベルト

山名	標高m	測定日	最高値	標高m	中間値	標高m	最低値	標高m
福島県・阿武隈山系北部								
1 霊山	825	11.11.06	3.090	785	2.026	760	1.096	800
2 虎捕山	706	11.12.10	6.616	705	4.349	706	2.549	675
3 花塚山	918	11.10.26	4.378	810	2.606	895	1.054	740
4 日山	1055	11.11.13	5.188	960	2.664	870	0.612	790
5 常葉鎌倉岳	967	11.11.27	6.256	955	3.587	909	0.500	968
福島県・阿武隈山系南部								
6 大瀧根山	1192	11.10.29	1.987	1185	1.070	925	0.266	770
7 吃鬼屋山	875	12.03.30	3.732	760	2.064	780	0.758	730
8 背戸岨		12.04.01	0.306	446	0.254	187	0.203	163
9 ニッ箭山	710	12.03.30	1.083	710	0.640	640	0.192	185
福島県・中西部								
10 安達太良山	1700	11.11.26	0.276	1000	0.169	940	0.045	1680
11 鉄山	1675	12.01.14	0.114	1190	0.080	1675	0.040	1355
12 東吾妻山	1920	12.03.25	0.137	890	0.059	920	0.023	1350
13 磐梯山	1818	11.12.16	0.195	744	0.140	1216	0.110	1594
14 猫魔ヶ岳	1404	12.02.22	0.118	1020	0.036	1020	0.015	1290
15 二岐山	1544	11.11.27	0.113	1400	0.067	1200	0.035	1544
岩手県								
16 岩手山	2038	11.11.27	0.037	駐車場	0.024	5合目	0.012	8合目
17 室根山	896	11.12.01	0.319	登山口	0.224	キャンプ場	0.193	896
18 五葉山	1341	11.12.05	0.229	5合目	0.162	2合目	0.108	8合目
宮城県								
19 水沼山	375	12.02.26	0.130	375	0.110	350	0.070	20
茨城県								
20 八溝山	1022	12.01.08	0.893	950	0.714	834	0.545	1022
21 高鈴山	623	12.03.03	0.404	600	0.215	623	0.115	530
栃木県								
22 釈迦ヶ岳	1794	11.11.23	0.905	1507	0.502	1500	0.145	1794
23 古峰ヶ原	1330	11.11.27	0.776	1330	0.560	1270	0.245	1090
24 鳴虫山	1103	11.12.06	0.686	1095	0.443	1000	0.214	590
25 古賀志山		11.10.30	0.156	520	0.125	470	0.113	460
群馬県								
26 榛名山系	1390	12.01.14	0.314	1100	0.217	1280	0.084	1194
27 赤城・黒檜山	1830	12.01.29	0.099	1250	0.071	1200	0.036	1830
東京都・埼玉県								
28 景信山	754	11.12.11	0.177	700	0.128	719	0.078	749
29 大塚山/日の出山	920	12.04.15	0.108	830	0.064	920	0.028	902
30 二子山	1166	11.12.10	0.134	961	0.075	986	0.027	1055

記事は4面に掲載

連休登山で登山会員も遭難 低体温症に要注意

風雨を避け 撤退は早めに

今年も5月の連休に、死

亡も含む遭難事故が相次ぎ
ました。5月4日の北アル
プスは悪天候で、稜線上で
今年も5月の連休に、死
亡も含む遭難事故が相次ぎ
ました。5月4日の北アル
プスは悪天候で、稜線上で

23人が死亡、2人が行方
不明になったと発表してい
ます。特に、白馬岳での6
人グループと穂高連峰・涸
沢岳の1人は、悪天候によ
る低体温症が原因でした。
涸沢岳のグループは登山
たベテランです。

背景にある 登山者の高齢化

こうした低体温症による
遭難は、最近目立つよう
なってきました。2006
年10月の白馬岳4人死亡、
2009年7月の北海道・
トムラウシ山の9名死亡
とあいつぎ、そして今回で
す。トムラウシ山の事故で
は、亡くなった何人かのザ
ックからダウンやフリース
が発見されたと伝えられま
すが、今回の白馬の遭難で
も、防寒具が身につけられ
ないままザックに残ってい
たと後日、報道されまし
す。

白馬岳の遭難者を発見し
たのは登山会員でした。報
告によれば、当日の天候は
最初は雨で、のちにみぞれ
から強烈な風雪に変わった
とのことでした。
「足取り」の表 チョオユ
は2004年(誤) ↓2
003年(正) チョモラン
マは2005年(誤) ↓2
004年(正) 本文中
「03年に日本人7人のツア
ーで」(誤) ↓「03年に単
独で隊を組織してチョオユ
」に行きました(正)

「山筋ゴゴ体操」は、
「山筋(やまきん)ゴ
ゴ体操」という一風
変わった名称は、どのよ
うな意味があるのでしょ
うか
構想の段階で五つの筋力
体操に絞ろうとネーミング
を考え、「前へ進む」意味の
GOを引っ掛けたのが始ま
りでした。登山に必要な筋
力というフレーズを、今流
れ変わってねんご」登山道の

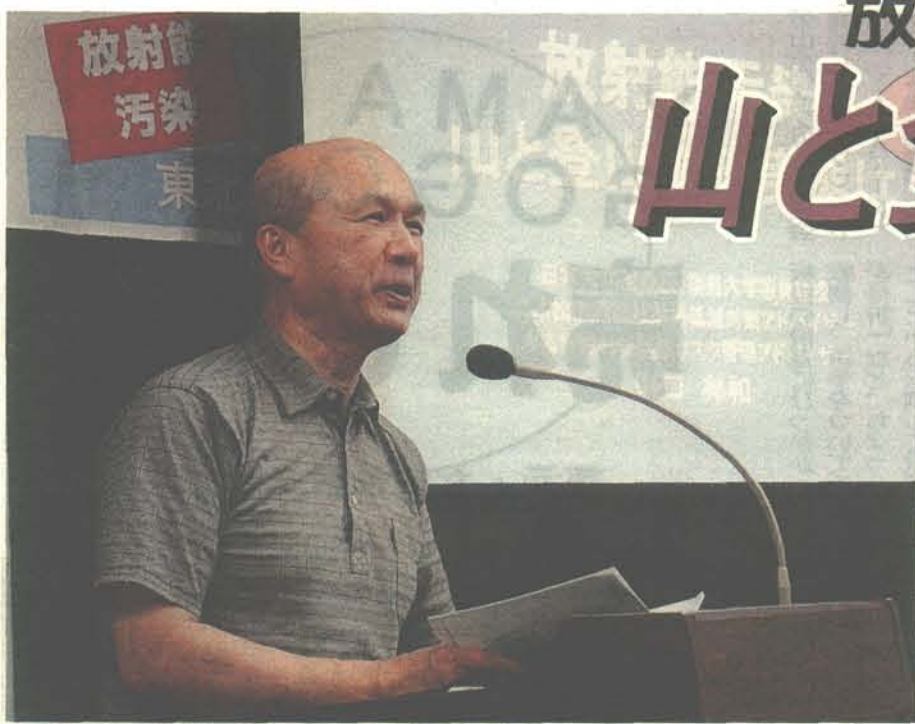
「このパンフのねらいは
何でしょうか
全国連盟対部がまとめ
た登山会員の事故分析で、
50代から60代の特に女性の
事故が多く、その内容も
「小石に足をとられ、足を
ひねってねんご」登山道の

体温	症状
36℃台	寒さを感じる、寒気がする
35℃台	手の細かい動きができない、皮膚感覚が麻痺したようになる。しだいに震えが始まっていく。歩行が遅れがちになる。
35~34℃	歩行は遅く、よろめくようになる。筋力の低下を感じる。震えが激しくなる。口ごもるような会話になり、時に意味不明の言葉を発する。無関心な表情をする。眠そうにする。軽度の錯乱状態になることがある。判断力が鈍る。
※山ではこの段階までに回復処置を取らなければ死に至ることがある	
34~32℃	手が使えない。転倒するようになる。まっすぐに歩けない。感情がなくなる。しどろもどろな会話。意識が薄れる。歩けない。心房細動を起こす。
32~30℃	起立不能。思考ができない。錯乱状態になる。震えが止まる。筋肉が硬直する。不整脈が現れる。意識を失う。
30~28℃	半昏睡状態。瞳孔が大きくなる。脈が弱い。呼吸数が半減。筋肉の硬直が著しくなる。
28~26℃	昏睡状態。心臓が停止することが多い。

「山と渓谷」2010年10月号より転載

「山と渓谷」2010年9月号が特
集を組んでいます。ぜひパ
ックナンバーを探してくだ
さい。(編集部)

放射能汚染問題で講演会 山と登山道は安全か



講演する野口さん

労山 放射線量を百力所以上測定 福島県東部以外は問題なし 阿武隈でも登山道だけなら...

登山道の放射能汚染は大丈夫か？ 労山は昨年秋に放射線量計10台を購入し、各地方連盟の協力で東北・関東を中心に、これまでに100カ所以上の山で計測を行いました。その結果を日本大学准教授の野口氏に分析を依頼し、5月17日に東京・新宿スポーツセンターで講演していただきました。

「福島県内でも、日帰りで済むが」と前置きしながら登山道に及ぶ放射線の量から、次のように語りまは、数回登っても問題はない。要旨のみ紹介する量になるとは言えない」

野口氏は、集まった77名に対してこう語りまし

「福島県内でも、日帰りで済むが」と前置きしながら登山道に及ぶ放射線の量から、次のように語りまは、数回登っても問題はない。要旨のみ紹介する量になるとは言えない」

文科省が公表している航空機測定による放射能汚染地図は、300m上空からの測定のため、測定地点が1〜2km間隔で大きすぎる。地上で直接計ることが大切



熱心に講演を聴く参加者

で、労山の調査は貴重だ。測定結果をみると、福島県以外の山は最高値でも毎時1マイクロシーベルトを越えず、問題になることはない。福島県内でも、半数以上の山は他県と同じく1マイクロシーベルト以下である。阿武隈山地などでは高い数値で、虎捕山（とらとりやま）706m、飯館村（いひだんむら）や、常葉鎌倉岳（とぎわかまくらだけ）967mなどでは、毎時5マイクロシーベルトを越える高い線量が観測された。

それでも、登山中にあつた累積放射線量を計算すると、常葉鎌倉岳で7.4マイクロシーベルト（登山時間3時間）であり、日常生活で受けている自然放射線量（体内外の被曝量 年間1500マイクロシーベルト程度）を考えると、数回登っても問題のある量とは言えない。

ただし、線量の高い山に登る場合は、合計被曝量を計算しなければならぬ。また、ヤブの中や木の葉が落ちる樹木の下、窪地などは放射性物質がたまりやすく、そこに長時間とどまることは好ましくない。

福島原発事故では、火災を起こしたチェルノブイリ事故と違い、比較的低いところを吹いた風で放射能が運ばれた。このため、地形の影響を受けやすく、谷間や東側斜面には線量の高い



20mの奥壁は見上げるばかり（黄色いTシャツは私）

韓国でノルラツスムニダ（驚きました）

1年中 アイスクライミングができる！

韓国の山岳連盟「大韓山岳連盟」が今年、創立50周年を迎え、労山にも記念式典の招待状が届いたため、花村・国際部担当副理事長と私（石川）の二人でソウルに行ってきました。

式典は4月23日の夜、ソウル中心部の立派な会場で60人以上が参加し盛大に挙行され、アジア山岳連盟7カ国からも日山協をはじめ20人以上が参加しました。労山も記念品に壁掛けの電波時計を贈りました。

翌日、ソウル近郊の北漢山にアジアの仲間と登り、その帰途、麓にある室内ア

アイスクライミング練習場を見学し、本当に驚きました。

ここは、「KOLONスポーツ」という登山用品店の地下4階にあります。冷凍庫のような扉を開けて中に入ると、そこは完全な冬の世界。四面の壁が真っ白に凍り付き、奥壁は20mの高さで見上げるばかり。他に8mの水壁3カ所と8mの水柱3本があります。温度計はマイナス8度を指していました。

この建物は「KOLON登山学校」となっており、他に通常の人工壁、80人収容の講義室、80人が泊まれる宿泊室、20人用の講師専用宿泊室、シャワー室とロッカーなど、日本ではちょっとお目にかかれないくらいやましい施設です。いや、韓国はすすんでいるね。元気だね。

（記 石川副理事長）

●参加者の感想

・わかりやすかった。科学的にわかっていくと、冷静に対応しようという気になります。ぜひ、ご覧ください。

※この講演の詳しい内容は、「登山時報7月号」および「登山ホームページの動画サイト」「ムービー・コンテンツ」に掲載されています。ぜひ、ご覧ください。

●労山の取り組み

堀場製作所の放射線量計を10台購入。福島県連等の協力を得て、山を登り、登山道を中心に複数箇所測定。その方法は、立ち止まり地上1mで計測機を起動させ、測定数値が変化すると値を5回記録。中間値を測定値とした。実施した山は、昨年10月〜今年4月に延べ111カ所（測定結果の一部は3面掲載）。

■野口邦和先生のプロフィール

1952年生まれ。日本大学准教授、放射線防護学登山医学会会員。

1995年、日大チヨモランマ北東稜登山隊（北東稜からの初登に成功）に学術調査員として同行。6350mまで登り、宇宙線と大地放射線を測定。福島原発事故後は、テレビ出演や講演活動で国民の立場からアドバイスを行う。

労山の 優待施設が増えました

施設名 民宿風の散歩道（屋久島・モッチョム岳山麓）【住所】〒891-4401 鹿児島県熊毛郡屋久町原17	施設名 ハイランドホテル山荘（秋田駒山麓・田沢湖高原温泉）【住所】〒014-1201 秋田県仙北郡田沢湖町生保内字駒ヶ岳2-131
【電話】0997（47）2520 【優待内容】特別料金二食付5,000円（電話予約のみ）	【電話】0187（46）2121 【優待内容】10%割引
施設名 八幡平高原ホテル（後生掛温泉より徒歩10分）【住所】〒018-5141 秋田県鹿角市八幡平字熊沢国有林	施設名 嶽ホテル（岩木山麓）【住所】〒036-1345 青森県中津軽郡岩木町常盤野字湯の沢28-11 【電話】0172（83）2045
【電話】018（31）2011 【優待内容】10%割引	【優待内容】10%割引（旅行者を通さない直接予約、支払いは現金のみ。カード不可）
施設名 八甲田リゾートホテル（八甲田山麓・寒水沢温泉）【住所】〒030-0111 青森県青森市荒川字寒水沢1	施設名 ホテル龍泉洞（愛山・岩泉町）【住所】〒027-0501 岩手県下閉伊郡岩泉町岩手松橋1-2 【電話】0194（22）4111
【優待内容】10%割引（直接予約・支払いは現金のみ）	